

平成19年度病害虫発生予報第12号

平成20年3月5日
鳥取県病害虫防除所

予報の概要 [参考]

区分	農作物名	病害虫名	発生時期	予想発生量
普通作物	イネ	ばか苗病	平年並	やや少ない
		イネシンガレセンチュウ	平年並	やや少ない
果樹	ナシ	黒斑病	平年並	平年並
		ハダニ類	平年並	平年並
		カメムシ類	-	平年並

気象予報 (抜粋)

1か月予報 (3月1日～3月29日：2月29日、広島地方気象台発表)

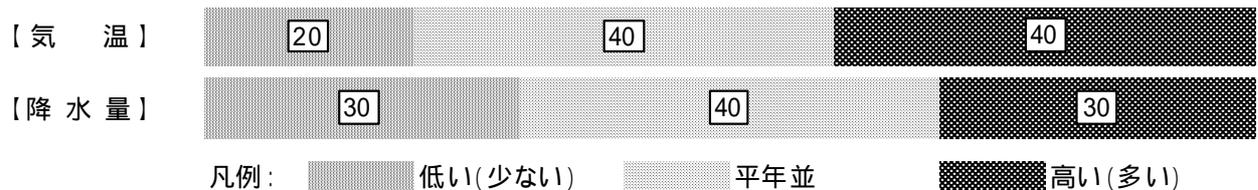
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わるでしょう。

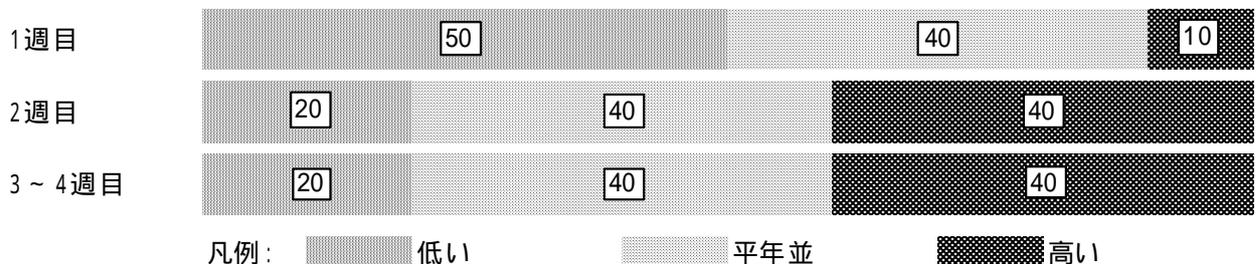
向こう1か月の気温は平年並または高い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は低い確率50%、2週目と3～4週目は平年並または高い確率ともに40%です。

< 向こう1か月の気温、降水量の各階級の確率 (%) >



< 気温経過の各階級の確率 (%) >



普通作物

[イ ネ]

1 ばか苗病

(1) 予報の内容

発生地域	県内全域
発生時期	平年並(育苗期)
発生量	やや少ない

(2) 予報の根拠

昨年の発生はやや少なかったため、本年用種子の保菌率は低いものと推測される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 前年の発生ほ場から採取した粕は、種子として使用しない。
- イ 塩水選及び種子消毒を徹底する。
- ウ 温湯種子消毒にあたっては、消毒時間、温度などを厳守する。消毒後の種子を保管する場合には、種子を十分に乾燥させ、清潔な冷暗所に保管する。浸種を行う場合には、必ず水道水を使用し、適宜水の交換を行う。
- エ 薬剤による種子消毒(浸漬処理)にあたっては、薬液がよく浸透するように網袋にゆとりをもたせて、十分にかき混ぜる。また、薬液の温度が10以下にならないように注意する。消毒後の浸種は停滞水中で行い、水の交換は原則として行わないが、水温が高い場合など酸素不足になるおそれがあるときは静かに換水する。

2 イネシンガレセンチュウ

(1) 予報の内容

発生時期	平年並
発生量	やや少ない

(2) 予報の根拠

昨年の本虫による葉先枯れ症状の発生はやや少なかったため、汚染率は低いものと推測される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 前年の発生ほ場から採取した粕は、種子として使用しない。
- イ 塩水選及び種子消毒を徹底する。
- ウ 温湯種子消毒については、ばか苗病に準じる。
- エ 薬剤による種子消毒(低濃度長時間浸漬)の場合、ばか苗病防除薬剤と本虫防除薬剤の混用により同時防除が可能であるが、各薬剤の使用濃度が異なるので注意する。

果 樹

[ナ シ]

1 黒斑病

(1) 予報の内容

発生時期	平年並
発生量	平年並

(2) 予報の根拠

ア ナシ園における越冬菌密度調査の結果によると、側枝上の枝病斑数及び腋芽の病芽率は平年を下回ったが、短果枝の病芽率は平年を上回った。

イ 向こう1か月の気象予報によると、発生時期は平年並と見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 3月中に枝病斑削り取り後のトップジンMペーストによる塗布作業を徹底して行う。特に、枝病斑は2～3年生部分の側枝に集中して形成されているので、側枝全体をよく見て病斑の削り取りとトップジンMペーストの塗布を行う。

イ 3月下旬～4月(発芽期～開花前)になると、芽の動きから病芽がはっきりと判別できるようになるので、この時期に園内を2～3回見回り、短果枝及び腋芽の腐れ芽を徹底して取り除く。

ウ 薬剤は、発芽期にアントラコール顆粒水和剤500倍液を散布する。さらに、りんぼう脱落直前にデランフロアブル1,000倍液、開花始めにジアリン水和剤6000倍液又はジラム・チウラム(パルノックス又はダイボルト)フロアブル500倍液を散布する。

2 ハダニ類

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 県内巡回調査園における、クワオオハダニの越冬卵数は平年並であった。

イ 向こう1か月の気象予報によると、発生時期はほぼ平年並と見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 枝、樹皮及び誘引なわなどに越冬虫が多く認められるナシ園では、春先の蕾や幼葉での被害が予想されるため防除を徹底する。

イ 防除は、3月15日頃までにハーベストオイル50倍液を散布する。なお、発芽期にアントラコール顆粒水和剤を散布するナシ園では、ハーベストオイルとの散布間隔を10日以上あける。

3 カメムシ類

(1) 予報の内容

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア クサギカメムシの越冬成虫数(簡易小屋トラップ)は、1トラップ当たり4.4頭(平年:8.8頭)とやや少なかった。一方、チャバネアオカメムシは越冬世代にあたる前年8～9月の予察灯への誘殺数が多かったことから、越冬量はやや多いものと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 山際及び作業小屋周辺では、越冬成虫による幼果の被害が懸念されるので、3月下旬までに果樹園内の小屋をきれいに清掃し、成虫を見つけ次第捕殺する。

イ 例年春先に加害を受ける園や、昨年秋期に家などにクサギカメムシが多く飛び込んできた地域では、ほ場を定期的に見回るなど注意を怠らないように徹底する。

[おしらせ]

農薬は、農林水産省の登録番号のあるものを、ラベルをよく読んで使いましょう。
詳しい内容は、独立行政法人 農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報検索システム」(<http://www.famic.go.jp/>) から検索できます。

農薬の使用に当たっては、農薬使用基準を遵守するとともに、周辺への飛散には十分注意しましょう。

< 鳥取県病害虫防除所ホームページ >

アドレス <http://www.jppn.ne.jp/tottori/>

病害虫発生予察情報や病害虫の診断方法などの情報をお知らせしていますので、ご利用下さい。

鳥取県病害虫防除所
〒680-1142 鳥取市橋本 260
TEL : 0857-53-1345、FAX : 0857-53-5647
E-mail : boujyot@titan.ocn.ne.jp

次回新年度予報第1号の発表は、平成20年4月10日(木)の予定です。